

米リリーの創薬マッチング、日本で初開催 ヤン博士「10件以上に関心」、契約交渉へ

(2015年9月11日)



米イーライリリーで研究開発部門の最高責任者を務めるヤン氏（11日、都内）

米国イーライリリーは10～11日の2日間、日本国内に焦点を当てた創薬共同研究のマッチングイベント「イノベーションデイ・ジャパン」を開催した。1次選考を通過したアカデミアや企業が日本全国から東京に集まり、自前の創薬シーズを米リリーにアピールした。米リリーで研究開発部門の最高責任者を務めるヤン・M・ルンドベルグ科学技術部門エグゼクティブ・バイスプレジデントはマッチング終了後、日刊薬業のインタビューに応じ、「まだ初期評価の段階だが、10以上の研究テーマに関心を持った」と明かした。

米リリーは欧米でも同様のマッチングを実施してきたが、日本で開催したのは今回が初めて。米リリーの重点領域である▽がん▽糖尿病▽アルツハイマー病▽自己免疫疾患▽疼痛—の5領域で創薬シーズを募集した。「ファースト・イン・クラスになり得ること」が応募の条件で、「実証されたモデル系を持ち、何らかのヒットもしくはリード候補品があればなお望ましい」とした。国内の応募総数は非公開。その中から35テーマが2次選考に当たる同日のマッチングに進んだ。

米リリー側は、新薬を生み出すために何が必要かを多くの経験から知っているベテラン

研究者と、新しい考え方ができる若い研究者でチームを組み、評価に当たった。

米リリーは10月末までに社内でマッチングの結果をまとめる。その後、共同研究契約の締結に向けて、最終選考に残った研究機関と詰めの協議に臨む。

●「米国開催よりも良い結果」

マッチング終了後、日本の創薬シーズの印象についてヤン氏は「米国開催の結果と比べても、とても良い結果だったと思っている。日本の科学の質は高いと感じた。非常に興味深いプレゼンテーションがあった。今後、それをフォローしたい」と語った。

評価に当たり、ヤン氏が重視したのは2点。一つは「ユニークなアイデア」だ。ヤン氏は「5つの疾患領域で、海外の研究動向も熟知しているメンバーが、どれだけユニークな視点の研究かを判断した」と指摘した。もう一つの評価ポイントは「日本人に多い疾患や変異」だという。ヤン氏は「日本人に多い胃がんや肺がんの変異などにも着目した。日本の疾患から学ぶことにメリットを感じる。リリーにとって、日本は優先順位が高い国だ。日本人のための薬を作るという視点も判断材料に加えた」と語った。

最終的な契約件数や、1件当たりの共同研究費用といった「枠」は決めていない。ヤン氏は「治療領域において、ベストサイエンスと適切なアイデアがあれば良い」とし、「いくつかの研究機関と、互いにメリットのある契約を結びたい」と語った。

今後、日本で第2回目の「イノベーションデイ」を開催する可能性もありそうだ。ヤン氏は「1年後か、数年後に、また日本で開催したい」と語った。